

調査研究終了報告書

研究分野：保健

調査研究名	野生動物におけるE型肝炎ウイルスの侵淫状況調査研究
研究者名(所属) ※O印：研究代表者	○石橋哲也, 中山志幸, 世良暢之, 千々和勝己(ウイルス課), 江藤良樹(病理細菌課)
本庁関係部・課	保健医療介護部保健衛生課, 農林水産部林業振興課
調査研究期間	平成18年度 - 19年度(2年間)
調査研究種目	1. <input checked="" type="checkbox"/> 行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input type="checkbox"/> 共同研究(共同機関名:) <input type="checkbox"/> 受託研究(委託機関名:) 2. <input checked="" type="checkbox"/> 基礎研究 <input type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究 3. <input type="checkbox"/> 重点研究 <input checked="" type="checkbox"/> 推奨研究 <input type="checkbox"/> ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第3次実施計画	柱 : いきいきと暮らせる安全・安心な社会づくり 大項目: 健やかに暮らせる社会づくり 小項目: 食の安全・安心の確保
福岡県環境総合基本計画 (P20,21)※環境関係のみ	柱 : テーマ:
キーワード	①E型肝炎 ②野生動物 ③PCR
研究の概要	
1) 調査研究の目的及び必要性 イノシシ等の野生動物の肉の喫食が原因で感染するE型肝炎を、未然に防ぐために行う啓発活動のための基礎資料として、野生動物のE型肝炎ウイルス保有状況を把握することを目的とする。 県内では、過去に同様の調査が行われたことがないため、県内に生息する野生動物のE型肝炎ウイルス保有状況については一切把握されていない。一方、農林業保護を目的に、毎年多くのイノシシ、シカ等が駆除されているが、その一部は狩猟者らによって喫食されている。このため、E型肝炎患者発生を未然に防ぐための啓発活動は重要であると考えられる。	
2) 調査研究の概要 県内の猟友会によって捕獲されたイノシシ、シカの肝臓、血液等について、RT-PCR法によりE型肝炎ウイルス遺伝子の有無の確認を行い、確認された検体については、更に塩基配列を調べ遺伝子型を決定した。	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果(できるだけ数値化してください) イノシシ189検体、シカ18検体について検査を行った結果、イノシシ18検体16頭からE型肝炎ウイルス遺伝子が検出された。	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 今回の調査結果により、福岡県内に生息するイノシシにもE型肝炎ウイルス遺伝子を保有している個体がいることが確認された。	
5) 調査研究結果の独創性、新規性 福岡県内に生息するイノシシ等におけるE型肝炎に関する調査は、これまで行われていないので、初めてのデータとなる。	
6) 成果の活用状況(技術移転・活用の可能性)	